



ヤブコウジ(十両) サクラソウ科

山地の木陰に群生し、特に地下茎により繁殖する。高さ10～20cmと低く、葉に隠れて実が見つけない。



カラタチバナ(百両) サクラソウ科

暖地の林内に自生。茎は直立し、20～100cmの高さになる。枝分かれはせず、4種の中では明確に葉が大きく長い。



センリョウ(千両) センリョウ科

暖地の林内に生え、高さ50～80cmになる。地下茎により増え、1本の茎の根元から数本が生える(株立ち)。実は葉の上に実る。



マンリョウ(万両) サクラソウ科

暖地の林内に自生。茎は直立し、上部でまばらに枝分かれして高さ30～100cmになる。実は葉の下側に実る。

これら4種の樹木は冬に赤い実をいくつもつけることから、お金がたまる様子に例えられ、正月の装飾に使う縁起物として古くから親しまれてきた。

見栄えがよく、よりたくさんに実るものに大きな金額がつけられたとされる。

自然教育園には生育していないが、一両にはアリドオシという植物があてられている。「千両、万両、有り通し(金は千両も万両も一年中ある)」という縁起担ぎの言葉がもととなり、センリョウ、マンリョウに添えて床の間に植えられていた。